

# 「戦争行かせぬ」対話加速

安倍自公政権が強行した戦争法を廃止させたい。全国津々浦々でたたかいが大きく盛り上がるなかで迎えた2016年。北海道苫小牧市では、「戦争法廃止」苫小牧実行委員会（が2000万署名で国民世論を結集しよう）と新年からダッシュしています。

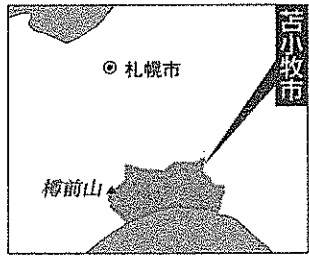
北海道苫小牧 (名越正治)

「力を合わせて、戦争法を廃止させよう。2月1日、雪を頂いた樽前山（たまたまさん）の麓にある神社の門前で、参拝客に元気づけられるように、戦争法が成立した後もよく署名を呼びかけるメンバーたち。

## ■新春から

車の窓を開けて「ください」とピラを受け取る青年、晴れ着姿の女性や親子連れが足を止め、「寒いのに、ご苦労さま」と声をかけて署名に応じます。

## 実行委が住宅軒並み訪問



広げよう  
2000万署名

## 50人目標挑戦者たくさん募る



17日の横断幕でアピール＝北海道苫小牧市

シャワーを奪っています。私も昨年未だ達成しました。フクワクしながら、100人、1000人と広げていきたい」

実行委員会は昨年、毎週街頭に出て、宣伝をしてきた。大横断幕が目

とまり、クラクションを鳴らして合図を送ったり、車中から手を振ったり、信号待ちで窓を開けて、訴えに聞き入る人が相次ぎました。

「7年前、理不尽な『派遣切り』に抗議したトヨタ北海道の正門前宣伝を思い出しました」と語るのは苫小牧地区労連元事務局長の森下克弘さん（68）。最後尾が見えないほど後続車が延々と続いているのに、窓を開けて手を差し出し、用意したピラがあっという間になくなったのでした。

「今度の相手は、自衛隊員を海外へ派遣する安倍自公政権です。『殺し殺される』事態はとても人ごとではないと、国民の怒りは高まっています」

実行委員会は、団地や一戸建て住宅を軒並み訪問する高校生もいる北海道ですが、国民の戦争法反対運動のなかで、自衛隊離れが急速に進んでいます。

横山さんたちの街頭行動に、「先生、頑張っているな」「かっこいい」と話しかけてくる卒業生や在校生も少なくありません。

横山さんは話します。「先の戦争を体験した先輩たちが少なくなり、『戦争する国』にしたい人たちは今を逃してはならないと思っているでしょうが、それは問題が卸さない。すべての有権者との対話と署名できっちり押し返していこう」

横山さん（左から2人目）ら苫小牧地区労連の人たち＝北海道苫小牧市

## ■共同して

実行委員会には、高教組と胆振教組（全教加盟）だけでなく、北教組（日教組加盟）苫小牧支会も加わっています。第1次安倍政権が改憲教育基本法を押し通した06年から共同を継続しています。

「教え子を二度と戦場に送らない」との教職員の痛恨の思いをけっして忘れない、この決意が共同を広げてきました。高校教員で、苫小牧地区労連議長を務める横山傑（すべる）さん（52）は、こう強調します。